

施策No.	政策名	安心と安らぎのある健康福祉社会づくり	主管課	健康推進課	主管課長名	藤田 義治
201	施策名	健康づくりの推進	関係課	国保年金課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		市民	①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,190	42,571
				実績値	46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,632	42,000
				見込値								
				実績値								
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	健康で元気に暮らす事が出来る	①健康で元気に暮らしていると思う市民の割合	%	目標値			80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
実績値				67.0	78.8	79.2	78.4	75.1	72.0	73.3	74.2	
②生活習慣病による死亡数(人口10万人当たり)		人	目標値			766.8	806.8	846.8	886.8	926.8	966.8	
			実績値	726.8	717.1	709.4	762.8	734.8	782.8	713.5	—	
③特定保健指導該当者の割合		%	目標値			17.0	16.3	15.8	15.3	15.0	15.0	15.0
			実績値	19.2	17.2	17.0	17.4	16.3	15.7	14.6	14.6	
			目標値									
			実績値									
成果指標設定の考え方		・「健康で元気に暮らす事が出来る」は、①健康で元気に暮らしていると思う市民の割合(市民アンケート)が上がり、健康に対する意識と健康状態が向上すると考えられる。 ・また、「健康で元気に暮らす事が出来る」ということは、②特定保健指導該当者(メタボリックシンドロームが疑われる検査項目のある一定の基準値に達した者)割合が下がる(低い方が良好な状態。ひいては、③中長期的には、生活習慣病による死亡率も低減すると考えられる。										
成果指標の把握方法と算定式等		①健康で元気に暮らしていると思う市民の割合(H29年市民アンケート) ②特定保健指導該当者の割合(法定報告値、H27年度は確定値、H28年度は見込値) ③他市との比較が可能な生活習慣病による死亡率(茨城県社会生活統計指標、当指標は毎年6月ごろ公表となり、直近値はH27年)										

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○自分の健康に関心を持ち、年に1度は健康診査及びがん検診を受診する。 ○健診の結果、精密検査が必要という結果がでたら速やかにを受診する。 ○定期的に血圧や体重を測り、適正体重になるよう生活習慣を見直し改善に取り組む。 ○健康づくりのイベントやボランティア活動に積極的に参加する。	○健康診査やがん検診の受診勧奨をし、受診率の向上努める。 ○健康診査を受けやすい環境づくりをしていく。 ○健診後の要精密検査者や精密検査未受診者のフォローを行う。 ○生活習慣病などの予防及び重症化予防に関する相談・教室の充実を図る。 ○健康づくりに関する意識の啓発に努める。 ○健康づくりを促進するボランティアの育成・支援を行う。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○生産年齢人口が減少し、少子高齢化が進むことが推測されている。高齢化と共に、がん、脳血管疾患や心疾患、糖尿病性疾患等の生活習慣病の罹患や死亡が高く、今後さらに高まることが考えられる。 ○これまでの取り組みで、「メタボリックシンドローム」という言葉は浸透し、自分の適正体重を知っているという市民が80%を超えている。また、運動を習慣化している市民も増加傾向にある。 ○健康づくりに関する情報をいつでも簡単に得ることが可能な時代になっている。そのため、マスメディアに影響を受けた偏った健康への取り組みも考えられるので、適切な指導が必要である。	○市民アンケートの優先度・満足度調査では、満足度が高いが優先度も高くなっており、引き続き健康づくりに取り組みやすい環境を整備する必要がある。 ○健康診査やがん検診の受診率を向上させ、生活習慣病やがんによる死亡を低減させる。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①健康意識の啓発と健康づくりの推進	児童生徒、成人、高齢者	健康に関心を持ち健康づくりに取り組む	健康のため何らかのことを心がけている人の割合	実績値	88.1	89.5	87.0	94.8	93.2	92.4	92.6
				%							
②健康診査等の充実	成人、高齢者	疾病を早期に発見できる	①特定健診受診率	実績値	37.4	35.8	36.9	36.0	36.6	35.6	37.1
				%							
			②定期的に健康診断を受けている人の割合	実績値	37.6	37.8	39.6	48.0	49.5	46.4	51.4
				%							
③母子の健康づくり	母子	母子ともに健やかに子育てができる	①乳幼児健診受診率	実績値	91.8	93.9	93.7	93.8	94.6	93.8	95.7
				%							
			②子育ては楽しいと感じる保護者の割合(幼児検診時アンケート)	実績値	92.2	91.4	87.8	91.1	86.0	88.4	86.1
				%							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	実績		
		26年度実績	27年度実績	28年度実績
①本施策を構成する事務事業の数	件	22	22	20
②施策事業費(一般財源以外)	千円	12,543	8,134	9,233
③施策事業費(一般財源)	千円	154,043	150,731	150,758
④施策事業費の計(②+③)	千円	166,586	158,865	159,991
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	46,703	39,588	39,348
⑥計(④+⑤)	千円	213,289	198,453	199,339

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	健康づくり計画推進事業	後期基本計画主要事業
事務事業	特定保健指導事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	がん検診事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	生活習慣病予防事業	H27貢献度上位
事務事業	乳幼児健康診査事業	H27貢献度上位

施策番号	201	施策名	健康づくりの推進	主管課	健康推進課
------	-----	-----	----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)					
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)		
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した			
背景・要因	<p>○健康で元気に暮らしている市民の割合は、市民アンケートより70%台後半であったが、H26年度頃一時低下し、H28年度には74.2%となりやや回復傾向にある。</p> <p>○市民が自分の健康づくりに取り組んでいる内容は、「朝食をほぼ毎日食べる」が74.4%で1番高く、他は「睡眠時間を十分とるようにしている」「定期的に健康診断を受けてる」「毎日野菜を食べている」「かかりつけ医を決めている」「かかりつけ歯科医を決めている」「自分に合った量や食事内容を考ええている」がそれぞれ徐々に増加傾向にある。</p> <p>○生活習慣病による死亡数(人口10万人当たり)は、年により波があるものの、H21年は726.8人であったが、H26年は782.8人となり、高齢化率の上昇(H21年24.4%、H26年28.8%、H27年度29.6%)と共に増加してきた。しかし、H27年度は、713.5人と低下した。</p> <p>○平成20年度より制度化された特定健診・特定保健指導について、特定保健指導該当者の割合は、開始当時(H20年度)は21.5%であったが、H28年度は14.6%と過去最低の該当率で、健康づくりにおける意識や活動の定着化が伺える。</p> <p>○乳幼児健診で①受診率はH25年度93.8%、H26年度94.6%、H27年度は93.8%、H28年度は95.7%と高い状況である。②乳幼児健診問診表より子育ては楽しいと感じる保護者の割合はH22年度からH25年度は横ばい状態であり、H28年度は91.5%と高くなっている。</p> <p>○子育て支援センターに参加している保護者はH24年度延べ参加者10,094人、H25年度10,579人、H26年度は11,912人、H27年度は12,997人、H28年度は13,190人と毎年増加している。</p> <p>○育児相談の問診票により、H28年度、赤ちゃん訪問を受けた219人中、育児に不安がある人は62人(28.3%)、その中で訪問により不安が解消したと答えた人は58人(93.5%)である。</p>				
1)-②成果目標の達成状況					
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った		
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った		
背景・要因	<p>○健康で元気に暮らしていると思う市民の割合は、目標値80.0%のところH28年度には74.2%で、低迷状態から回復傾向にあるものの未だ下回っている。</p> <p>○生活習慣病による死亡数は(人口10万人)H27年目標926.8人のところ713.5人と少ない(少ない方が良好な状態)。しかし、高齢化率の上昇と共に、今後、増加が推測される。</p> <p>○特定保健指導該当者の割合は、H28年度目標値15.0%に対し14.6%で、目標値に達している。特定保健指導の終了率も、開始当時(H20年度)は10.8%であったが、H28年度は35.7%と年々上昇してきた。特定健診の受診率や特定保健指導実施率も年々増加し、県平均より高い。</p> <p>○特定健康診査受診率は、開始当時(H20年度)は38.8%であり、H28年度36.7%とほぼ横ばい状態である。国の参酌基準と同じ目標値の50%を大きく下回っている。しかし、県平均や近隣市町村よりは高く、全県下的に受診率の伸び悩みがある。</p>				
2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)					
実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である		
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である			
背景・要因	<p>○生活習慣病によるH27年の死亡数は(人口10万人)713.5人で低下した。しかし、当市はH28年県内順位11位で(H20年7位、H24年8位)ある。H27年の県平均593.4人、県西地域629.2人で、当市は高齢化率の上昇と共に、高い状況である(筑西市は14位、結城市28位)。県内地域別では、県南地域、県東地域、県西地域、鹿行地域、県北地域の順に高い。死亡原因の上位は男性では脳血管疾患、急性心筋梗塞、糖尿病、女性では脳血管疾患、糖尿病、急性心筋梗塞による死亡率が高い。運動不足や食塩の過剰摂取と野菜の摂取不足など生活習慣・食生活の影響と考えられる。</p> <p>○H28年度特定健康診査受診率は県平均が36.4%、筑西市32.7%、結城市は29.4%、当市は37.1%(17位)と県平均や近隣市のよりやや高い。</p> <p>○H28年度特定保健指導終了率は県平均が29.3%、筑西市33.6%、結城市は10.5%、当市は35.7%(25位)と県平均や近隣市のよりやや高い。</p>				
3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?					
実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である		
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である			
特徴	<p>○市民アンケートによると、健康で元気に暮らしている市民の割合は74.2%で、健康づくりや運動に心がけている人もやや増えている。</p> <p>○生活習慣病による死亡数は、当市は県内でも高い状況である。高齢化もあるし、運動不足や食塩の過剰摂取と野菜の摂取不足など生活習慣・食生活によると考えられる。</p>				

7. 総合計画後期基本計画(H24~28)の振り返り

区分	これまでの取組成果
施策全体	<p>○健康で元気に暮らしている市民の割合は70%を超え、定期的な健診を受けている人や適切な健康づくり活動に取り組んでいる人の割合も年々上昇している。市民の健康づくりにおける意識や活動の定着しつつある。生活習慣病によるH27年の死亡数は(人口10万人)713.5人で低下した。しかしながら、高齢化は進み、今後上昇することが推測されている。引き続き、運動や減塩、野菜の摂取奨励など生活習慣、食生活の改善を啓発していく必要がある。</p> <p>○特定健診の受診率や特定保健指導の実施率も上昇し、特定保健指導該当率も低下がみられている。しかしながら、目標値にはまだ遠く、今後も受診奨励対策を強化していく必要がある。</p> <p>○健康推進員や食生活改善推進員の地区組織による健康づくり活動が進められている。</p>
基本事業	<p>①健康意識の啓発と健康づくりの推進</p> <p>○定期的な健診を受けている人や適切な健康づくり活動に取り組んでいる人の割合は年々上昇している。</p> <p>○「メタボリックシンドローム」という言葉は浸透し、自分の適正体重を知っているという市民が8割を超えている。</p> <p>○喫煙者や大量飲酒者は横ばいで嗜好性の高い習慣に関しては改善が難しいようである。</p> <p>○かかりつけ医やかかりつけ歯科医を持つ人が増えているが、かかりつけ薬局は浸透が低い。</p> <p>○健康推進員会で「+10:今より10分体を動かそう」「-1g?:おいしく毎日減塩」をテーマに啓発活動に取り組んでいる。</p>
	<p>②健康診査等の充実</p> <p>○アンケートによると定期的な健診を受けている人は51.4%であるが、市の健康診断(国保加入者の特定健診)の受診率は37.1%である。がん検診では、大腸・子宮・乳がん無料クーポン券やがん検診手等の交付により一部受診者が増加傾向にある。</p> <p>○健康カレンダーや広報、ホームページでの周知の他、各健診の対象初年度や加入保険切り替えの多い61歳全員に個人通知している。また、申し込み忘れのないよう、過去3年間に受診歴のある人には、受診票を個人通知している。H28年度には、国保と協働し、40歳全員への特定健診からがん検診の無料クーポンを交付した。</p> <p>○健診の環境整備として、子宮・乳がん検診と骨粗しょう症検診の医療機関検診を実施している。</p> <p>○健康推進員会と協働し、レディース検診の啓発事業として認定こども園や幼稚園での健康教育や商店街での街頭キャンペーンを実施した。</p>
	<p>③母子の健康づくり</p> <p>○児童虐待防止のうえで、母子健康手帳交付直後から、出産や育児に不安がある妊婦に関わり産科医療機関と連携を図りながら、早期にフォローを行っている。赤ちゃん訪問により育児不安が軽減できた割合が、平成27年度92.0%で平成28年度は93.5%に増加した。</p>